

令和 8 年度三条市鍛冶人材育成拠点構想推進事業について

1 令和 7 年度中に検討した内容

(1) 暫定版カリキュラムの策定

暫定版として以下のとおりカリキュラム内容の整理・検討を行った。

- ア 修了時に目指す人物像
 - イ 学修目標（座学、実技、適性）
 - ウ 学修スケジュール（座学、実技、その他）
 - エ 学修方法（座学、実技、適性）
 - オ 学修成果・適性の評価方法・基準
 - カ 修了の要件
- #### (2) 育成拠点機能、運営体制の検討
- ア 学修者の資格及び選抜方法
 - イ 学修課目の指導者の資格（座学、実技）
 - ウ 学修に必要な施設及び設備等（座学、実技）

2 令和 8 年度に検討する内容

(1) 暫定版カリキュラムの検証について

ア 座学の主な検証ポイント

- ・習得すべき知識の多くを網羅する「刃物製造技術論（三条市立大学）」を聴講することで、実際にそれらを習得できるか。（レポート等の評価によって検証）
- ・同講座の内容を理解するために必要な知識水準はどの程度か。
- ・標準的な学修者で、同講座以外の補講はどの程度必要となるか。
- ・上記の結果等を踏まえ、拠点の稼働当初における座学の学修時間はどの程度が適正か。

【学修科目（暫定版カリキュラムより抜粋）】

製図・CAD・デザイン、機械材料学（材料工学）、測定・検査・試験、安全衛生、材料力学基礎、生産工学・品質管理、加工技術

※太字下線が検証の対象科目

イ 実技の主な検証ポイント

- ・習得すべき基礎技術（鍛造、熱処理、研ぎなど）の多くが求められる包丁の製造を繰り返すことで、費やした時間相応に実際にそれらを習得できるか。（暫定版カリキュラムの評価基準に準じて検証）
- ・包丁づくりの前提となる技術を和釘、ペーパーナイフ、ハシ等の製造によって身に着けられるか。

- ・指導者による直接指導は何時間程度が適正か。
- ・上記の結果等を踏まえ、拠点の稼働当初における実技の学修時間ほどの程度が適正か。

【学修科目（暫定版カリキュラムより抜粋）】

道具・設備の使用方法、安全、鍛造（鍛接、整形）、熱処理（焼入れ）、焼戻し）、研ぎ（水砥、手研ぎ）、その他（柄仕込み、熔接等）、修了制作

※太字下線が検証の対象科目

【評価基準（暫定版カリキュラムより抜粋）】

項目	内 容
外 観	穴、割れ、欠け、錆等の欠点がない。
	バリ、曲がり、ひずみ等の欠点がない。
	刃先は、鋭利に研がれている。
	柄や台がバランス良く取り付けられている。
	桂、口金、目釘等が正しくはめられている。
技術技法	整形は、刃物鋼を十分に鍛錬している。
	熱処理がきちんとできているか
	製品用途や機能を損なわないように、厚さ、幅、長さを整え均一性が保たれている。
	打ち傷、へこみ、ひび等の欠点がない。
	肉取り不良ではない。
	刃付けは砥石を用いて、用途にあった刃角となっている。
	研ぎ及び仕上げは砥石を用いて、製品の品位を損なわないよう美しく仕上げる。

(2) 育成拠点機能、運営体制の検討

- ア 学修時間数等を踏まえた授業料の設定
- イ 授業料を踏まえた学修者の募集方法
- ウ 学修者のフォロー体制

(3) その他

検討会は3回程度の開催を予定